



# そよ風



## ご存知ですか? NST

～当院には、患者様の栄養状態を改善するためのサポート体制があります～

当院では、平成17年より医師、看護師、薬剤師、作業療法士、臨床検査技師、管理栄養士が集まり、栄養サポートチーム(NST)を組織し「患者様の栄養状態を改善するためのサポート活動」を行っています。

当初、NSTは15階東病棟(消化器外科)1病棟での開始でしたが、サテライトNST(病棟単位のNST)として10階東、10階西病棟(肝胆膵内科・消化器内科)、16階東病棟(肝胆膵外科・呼吸器外科)、15階西病棟(消化器外科・乳腺内分泌外科・心臓血管外科)と順次増え、現在では5病棟となり、救急病棟やICU、7階東病棟(血液内科)でも個別に対応が始められました。

サテライトNSTでの活動は、入院患者様に対する栄養状態の確認を行い、栄養状態に問題のある患者様がおられないか調査し、栄養状態に問題のある患者様には、NSTカンファレンス(検討会)で医師・看護師・管理栄養士が協力し栄養改善に努めます。

また、特に問題が大きい場面では、NST担当医師、薬剤師、作業療法士、臨床検査技師の連携サポートも可能な組織となっています。

実際の活動では、手術の前後に栄養が必要な方やお薬の影響で食事がすすまない方、歯の具合が悪くて食事が十分に食べられない方などに対し、医師、看護師、管理栄養士がベッドサイドに伺い、栄養の取り方を検討します。たとえば、食べやすい献立の調整や栄養補助のゼリーやドリンクなどを利用した栄養補給方法など様々です。

なお、現在サテライトNSTを運営する5病棟では、入院期間中の栄養評価を継続して行う栄養管理も実施しており、今後、順次対象病棟を増やしていく予定です。

その他、栄養サポートチーム(NST)の取り組みとして、医師、看護師、管理栄養士等が交代で講師を務める勉強会を開催し、スタッフへの栄養に関する実践的な技術、知識の啓発活動も積極的に行っております。

栄養の状態を改善することで、患者様が、安心して疾病の治療に臨まれ、一日も早いご退院が迎えられるよう栄養サポートチーム(NST)は努力いたします。



消化器内科カンファレンス

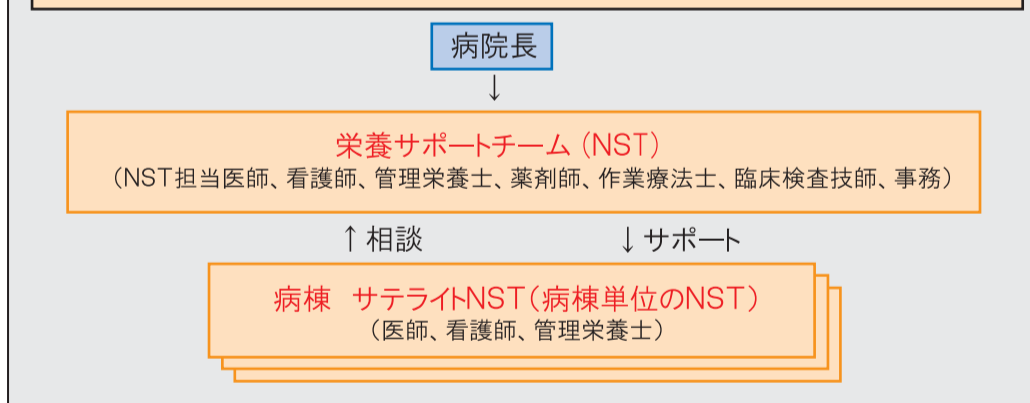


肝胆膵外科カンファレンス



栄養状態の確認や食事内容についてお聞きするため、医師、看護師、管理栄養士が患者様のベッドサイドにお伺いいたします。

### 大阪市立大学医学部附属病院 栄養サポートチーム(NST)組織図



## 理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します  
こころ豊かで信頼される医療人を育成します  
医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます

### (大学病院の) 基本方針

- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します

## 安全管理対策室だより

### 第1回 安全・安心で、みんな笑顔の病院づくり



病院の安全を守る**安全管理対策室**をご存知ですか?

患者様が安心して治療に専念していただくため、また職員が積極的に安全な医療を提供できるように平成12年に設立された部門です。副院長をリーダーに医師・薬剤師・看護師の専門職と事務職員も加わって活動しています。

**安全管理対策室**では、医療事故防止のマニュアルを作ったり、安全対策を徹底できるように院内をパトロールしたり、職員に対する安全教育活動にも力を入れています。また院内で発生したヒヤリ・ハットの情報を集めて原因をよく調べ、職員全員で事故防止に取り組めるよう対策を立てています。その他院内での感染を防ぐためのマニュアルを作ったり、感染の情報を集めて即座に対応で

きるようにしています。

さて先日、他院で採血用穿刺器具の使い回しや点滴の作り置きによる事故が報道されました。当院では以前からこれらに対応していましたが、これも**安全管理対策室**の業務の一環です。

このように**安全管理対策室**は、普段は患者様からは見えない



ところで活動しています。これからも「安全・安心で笑顔の病院づくり」を目指して努力してまいります。(安全管理対策室)

# 診療科紹介 腎臓内科

腎臓病態内科学  
准教授 石村 栄治

腎臓内科では「患者さんに優しい」治療を目標として最新の治療をおこなっています。血尿・蛋白尿、腎炎やネフローゼ症候群、腎機能低下、透析が必要、といわれたら、まず腎臓内科を受診して下さい(検診データ、かかりつけ先生の紹介状をなるべくお願いします)。外来診療では尿や血液検査、エコー検査(写真①)を行い、軽微な場合はかかりつけ先生に治療をお願いし、腎炎・ネフローゼや腎不全・透析の場合は入院していただきます。腎炎・ネフローゼでは、腎臓の組織を採取する腎生検が必須の検査です(写真②)。局所麻酔し、専用の生検針(幅1mmの細い針)を用いて約30分で安全に終了します。昨年は92人の患者さんに実施しております。腎臓の組織(1x12mm程度)を顕微鏡、電子顕微鏡、免疫染色を用いて(写真③)、正確な診断を行い、厳密治療を行います。日本で最も多いIgA腎症(写真④)には、扁桃摘出術とステロイド治療で寛解率約60%の治療実績です(2008年腎臓学会総会で発表)。また、難治性ネフローゼ症候群には(写真⑤)

ステロイド治療に加えシクロスポリンやミゾリビンなどの新しい治療薬、特殊な疾患には血漿交換療法やLDL吸着療法など、最新の治療法を駆使しています。

近年、慢性の腎像病全体を、慢性腎臓病(CKD)と呼ぶようになり、日本では、1092万人の患者さんがいることが日本腎臓学会総会で報告されました(2008年5月)。CKDは透析導入の予備軍であるとともに、動脈硬化を進行させ心臓病や脳卒中の引き金となります。早期発見と治療、特に高血圧治療、減塩・減蛋白食治療、合併症(貧血、電解質異常など)治療が非常に大事です。腎不全が進行した患者さんには安全な透析導入を行っています(写真⑥)。昨年度は53名の方が安定した透析治療を開始されました(当院の人工腎部や市内の透析専門病院と連携しております)。日本の透析患者さんは現在275,119人おられ、治療成績は年々向上しております。糖尿病専門医とも協力して多くの糖尿病腎不全患者さんを診療していることも当院腎臓内科の特色です。

## がん化学療法看護認定看護師について

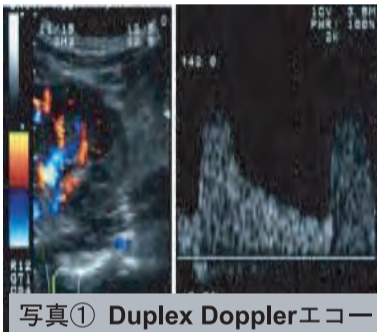
「がん化学療法(抗がん剤治療)」は、手術療法や放射線療法と同様にがん治療の重要な治療の1つです。がん化学療法看護認定看護師の役割は、がん化学療法を受ける患者さまとその家族を支え、安全を守っていくことです。多くの場合、がんは長い経過を辿り、多様な治療を必要とします。がん化学療法看護は、中でもがん化学療法が治療の選択肢となった時期の看護を専門としています。

現在、私は病院1階の「化学療法センター」に勤務し、通院でがん化学療法を受けられる患者さまのケアを行っています。これまでがん化学療法は入院して行われることが多かったのですが、最近では通院で受けられる患者さまが増加しています。

通院で安全にがん化学療法を継続するためには、患者さまに「いつどのような副作用が起こり得るのか」を知っていただき、そして、起こった場合は適切な対処方法をご自身で実施できるようになっていただくことが大切になってきます。そこで、治療を受けられる患者さまやそのご家族には写真のようにオリエンテーションを実施しています。

がん化学療法は治療方法も難解であるため、患者さまの担当医とはもちろん、様々なスタッフ(薬剤師、ソーシャルワーカー、栄養士など)と連携をとりながら、今後も患者様のお手伝いをしていきたいと考えています。

通院で安全にがん化学療法を継続するため、患者さまやそのご家族に、治療前にオリエンテーションを実施しています。



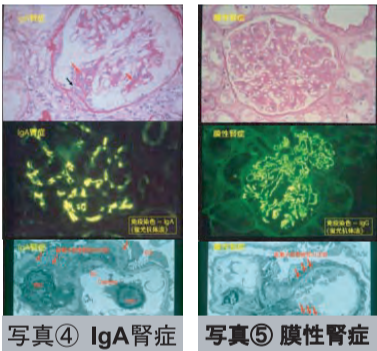
写真① Duplex Dopplerエコー



写真② 腎生検



写真③ 電子顕微鏡



写真④ IgA腎症

写真⑤ 膜性腎症



西沢部長  
(腎臓学会専門医、  
透析医学会専門医)



石村副部長  
(腎臓学会専門医、  
透析医学会専門医)



写真⑥ 血液透析装置

### 患者様の権利

- ・安全で質の高い医療を受ける権利があります
- ・自由意志に基づき治療を選択する権利があります
- ・十分な説明と情報提供を受ける権利があります
- ・セカンドオピニオンを希望される場合は、紹介を受ける権利があります
- ・人の尊厳を尊重した医療を受ける権利があります
- ・医療に関する個人情報やプライバシーが保護される権利があります
- ・健康教育を受ける権利があります

### 患者の皆様へお願い

- ・あなたの健康に関する情報は、できる限り正確にお伝えください
- ・病院スタッフの説明がわかりにくい場合は、納得できるまでお聞きください
- ・診療上必要な指示や助言は、お守りください
- ・他の患者様の権利を尊重し、迷惑がかかることのないようにご配慮をお願いします
- ・治験・臨床試験に、ご協力をお願いします
- ・大学病院の責務である医療人の育成と研究に、ご理解とご協力をお願いします



### 病院ボランティアを募集しています!!

#### ◆活動内容◆

- ・外来を中心とした患者さまへの院内案内
- ・車椅子をお使いの患者さまやお身体の不自由な患者さまの移動介助
- ・縫製作業(点滴着、ストーマ袋等の作成)
- ・その他

※活動内容に関するアイデアにつきましても、今後考えていきたいと思っています。

#### ◆お問合せ先◆

〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7  
大阪市立大学医学部附属病院 ボランティアルーム  
TEL/FAX: 06-6645-2694  
E-mail: volunteer@med.osaka-cu.ac.jp  
★外来でオリジナルエプロンを着用しているスタッフにお声掛けください。

## 大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時～午前10時30分  
電話 (06)6645-2121(代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日

### 診療科

総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産婦人科)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

ただし、早期発見・早期治療の観点から一部の診療科では紹介状がなくても受診は可能です。

その場合は初診料とは別に2,620円(助産は2,500円)をお支払いいただきます。

